



第2章 ● とちぎを創る

第1節 とちぎの将来像

少子高齢化の進行と人口減少の本格化、経済のグローバル化や高度情報化の進展、さらには地球環境問題の深刻化などにより、かつて私たちが経験したことのない時代の到来が予測されています。

こうした中で、誇れるとちぎを創り上げ、次の世代へと引き継いでいくためには、時代の潮流をしっかりととらえ、本県の可能性や潜在力を踏まえて、確かな将来像を描くことが重要です。

私たちが目指すのは、

- ◇ 県民一人ひとりが個性や能力を十分に発揮して真に輝く
- ◇ 健やかに安心して暮らすことができる
- ◇ 地域に活力があふれる
- ◇ 自然と共生し、恵み豊かな環境を次世代へと守り伝えていく
- ◇ 住む人々が住み続けたいと思い、訪れる人々が住んでみたいと思う

とちぎです。



とちぎのいちご

とちぎは、40年以上収穫量日本一を誇る「いちご王国」です。

このような本県の将来像を、このプランにおいて、

『安心』『成長』『環境』

をともにつくる

元気度 日本一 栃木県

として掲げ、県民の皆さんと一緒に、その実現に向け全力で取り組んでいきます。

第2節 とちぎの将来像の実現に向けて

1 とちぎづくりの基本姿勢

これまで本県では、「行政のみが“公(おおやけ)”を担う」という従来の発想から脱却し、「新たな“公(おおやけ)”を拓く」という考え方に立ち、すべての主体が、お互いの立場や垣根を越え、相互に連携・協力しながら、住みよい地域づくりや社会的な課題の解決に取り組む、「協働」によるとちぎづくりを進めてきました。

私たちを取り巻く社会環境が著しく変化する中、さらに複雑・多様化する課題に対応していくためには、県民、ボランティアやNPO、各種団体、企業など、地域社会を構成する様々な主体が、それぞれの持つノウハウやアイデアを相互につなぎ、発展させ、そこに新しい価値を生み出していくことが必要です。

そこで、このプランでは、「新たな“公(おおやけ)”を拓く」という考え方を継承し、「協働」の取組をさらに一歩前進させ、新たな時代の“公(おおやけ)”を実現するために、「**地域をともに創る**」という考え方に立ち、「**県民一人ひとりが主役となるとちぎ**」、「**多様な主体が協働・創造するとちぎ**」、「**地域が自立・発展するとちぎ**」の3つを基本姿勢として、とちぎづくりを進めていきます。

新たな時代の“公(おおやけ)”を実現する

～ **地域をともに創る** ～



色とりどりに咲き乱れるコスモス

一面に咲き競うコスモスが、とちぎに秋の訪れを知らせます。

(1) 県民一人ひとりが主役となるとちぎ

県民一人ひとりが個々の人権を尊重し、お互いを認め合いながら、それぞれの夢や目標を胸に社会に参画・貢献することで、魅力ある地域が創られ、地域への愛着や誇りもはぐくまれていきます。

一人ひとりが社会から必要とされ、そこに生きがいを感じ、それがさらなる自己研鑽へと結びついていく好循環が生まれ、そしてそのことが、協働によるとちぎづくりの原動力となり、活力ある地域の実現へとつながっていきます。

(2) 多様な主体が協働・創造するとちぎ

県民、NPO、企業、行政などがそれぞれの強みを活かしながら役割を分担し、連携・協力することに加え、各主体が柔軟な発想で既存の枠組にとらわれない取組を積極的に提案し、試みることで、そこに新しい価値が生まれ、活気とやすらぎにあふれる地域が形成されていきます。

多様な主体が創意工夫を凝らした取組を実践し、これまでにない新たな価値を創造することが、協働によるとちぎづくりをさらに前進させ、真に豊かな地域が創られていきます。

(3) 地域が自立・発展するとちぎ

地域のことを自ら考え、課題解決に向け、それぞれの地域の資源や人材を活かした自主的・主体的な取組が次々と展開されることで、特色ある地域が生み出され、あふれる活力が他の地域へと波及していきます。

自立する個々の地域がさらなる発展を遂げることで市町村の魅力が高まり、そうした市町村と県が連携・協力することで県全体が発展し、新たな時代におけるとちぎの飛躍をもたらします。



2 とちぎづくりの基本方向

(1) 政策の基本

目指すべき将来像の実現に向け、確かな歩みを進めていく原動力となるのは「人」であり、本県の明日を拓く人材を育てるとともに、最大の財産である多彩な人材を活かしていくことが、すべてのとちぎづくりの原点となります。

このため、「人づくり」を政策の基本に据え、様々な政策を進めていきます。

(2) 政策推進に当たっての視点

社会経済情勢が大きく変化し、行財政環境が厳しさを増す中、時代の潮流や本県の可能性と潜在力などを踏まえて、県民ニーズや行政課題を的確にとらえ、選択と集中による施策の重点化を図り、時代の変化に柔軟に対応しながら、戦略性を持って政策を推進していかなければなりません。

私たちが目指す将来像を実現するため、多様な主体による協働の取組を展開し、県民生活の基本となる「安全・安心の確保」、本県の発展に向けた「活力の創出」、県民総ぐるみで地球環境の保全に取り組む「環境立県への挑戦」の3つの視点で施策の重点化を図り、限られた行財政資源を有効に活用しながら、政策を進めていきます。



水面で羽を休める白鳥

羽田沼(大田原市)は白鳥の越冬地となっています。

①安全・安心の確保

暮らしの安全・安心が確保されることは、私たちが日々の生活を送る上での基本となるものです。

それぞれの地域で、安心して子どもを産み育て、生涯を通じて健康でいきいきと、安全に暮らしたいという県民の思いにしっかりと応える取組を進めていきます。

②活力の創出

活発な産業活動や創意工夫を凝らした地域の活動などは、地域に活力をもたらすし、県全体の発展につながります。

多様な産業の持続的な成長を促進するほか、様々な主体による地域づくりの推進などを図っていきます。

③環境立県への挑戦

地球環境を守り、本県が誇る豊かな自然環境や、自然と調和した優れた生活空間を次の世代へと引き継いでいくことは、私たちが果たすべき責務です。

県民一人ひとりが、自然との共生を図り、地球にやさしい低炭素・循環型社会の実現に向けた取組を積み重ねることで、限りない恵みをもたらしてくれる大切な環境を将来の人々へと継承していきます。

3 とちぎ地域づくりビジョン ～とちぎの広がり～

(1) 地域づくりの基本方向

暮らしを取り巻く状況が大きく変化する中、安全で安心して住み続けられ、環境と共生した活力ある地域づくりを進めていきます。

そして、日本の発展を牽引する成長エンジンとなる首都圏の一翼を担うとともに、北関東・磐越地域の中心に位置し、様々なネットワークの結節点にある本県の地理的優位性を最大限に発揮し、とちぎの魅力を国内はもとより世界に向けて発信していくことで、新しい時代の広がりゆくとちぎづくりを目指します。

(2) 地域の目指す姿

①個性の発揮

北関東自動車道の全線開通等により、人・物・情報などの交流が活発化し、これらを通して形成される地域間の連携を強化するとともに、多様な主体の参画と協働により、それぞれの地域が、その役割や特色を活かした持続可能で自立・安定した地域社会の実現を目指します。

農山村地域においては、豊かな自然を保全しつつ、農林業など地場産業の活性化や雇用の確保を図り、定住・交流人口を拡大し地域の活力を向上します。

都市地域においては、暮らしやすさや環境への配慮、中心市街地の活性化の観点から、集約型の都市構造への転換を図り、コンパクトな市街地構造の形成を図ります。



東北縦貫自動車道と北関東自動車道を接続する岩舟ジャンクション



とちぎの県獣「カモシカ」

県北西部の山地の奥深くに棲み、国の特別天然記念物にも指定されています。

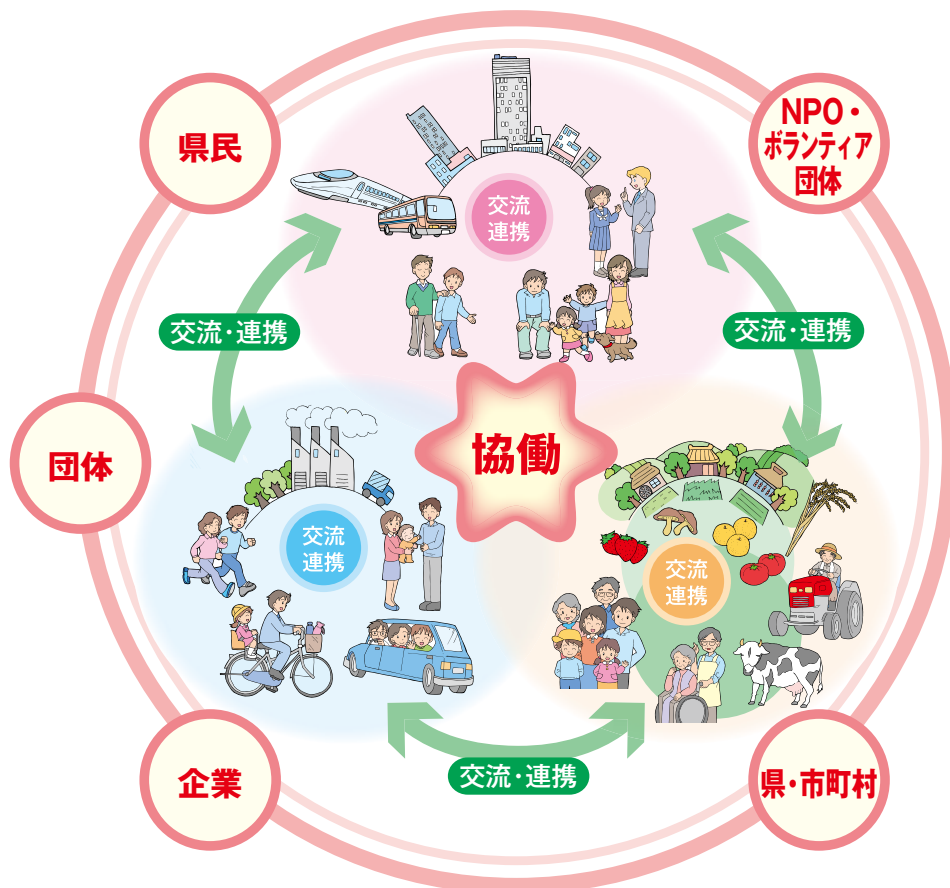
②交流・連携

ア 県内の交流・連携

真に豊かな地域を創るためには、県内の他の地域と交流・連携を進め、生活の質の向上や産業の活性化、魅力アップにつなげることが大切です。そのため、特色ある地域資源を磨き育て、発信することで、地域の相互理解を深め、機能の連携と相互補完によって、独自の地域づくりを行います。

特に、農山村地域においては、都市地域や民間企業などとの交流・連携の促進を図ることで、自然環境や県土の保全、水源のかん養などの機能を維持するとともに、新たなアイデアや活動による魅力ある地域づくりを進めます。

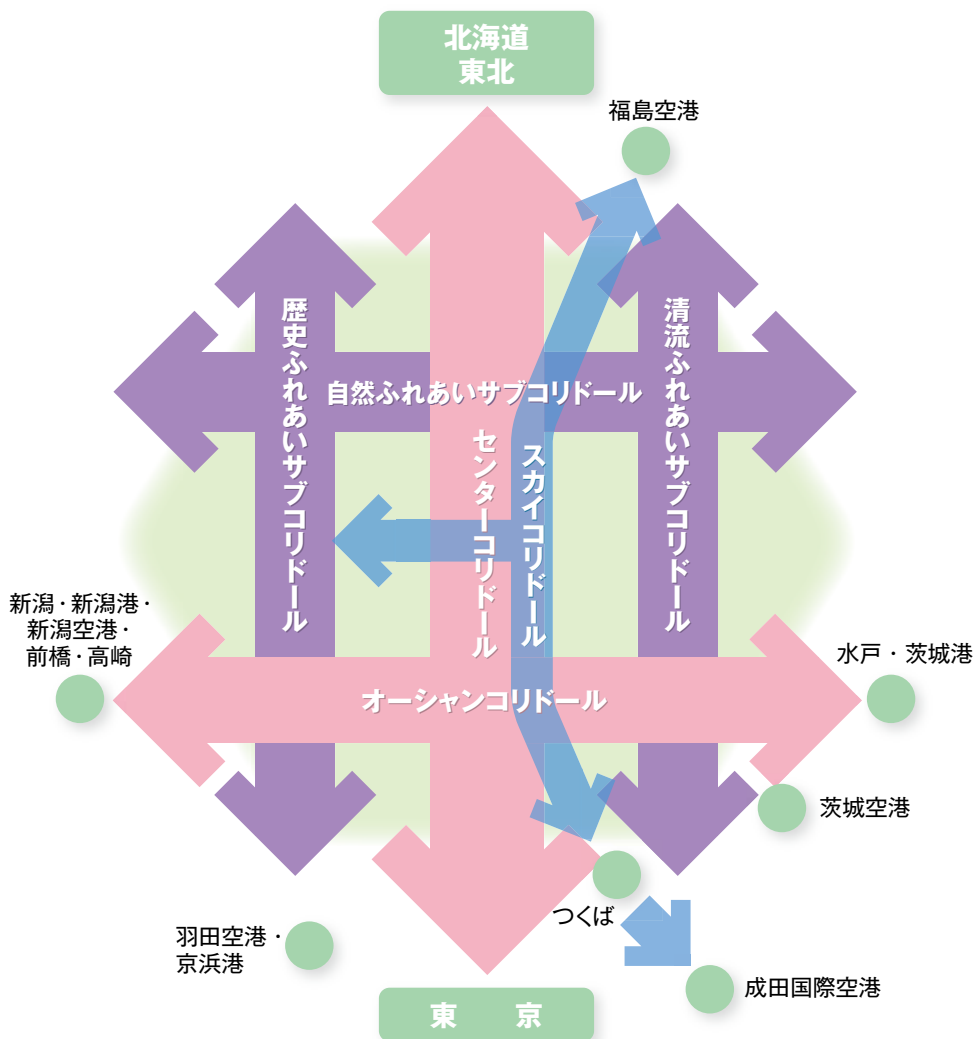
県内の交流・連携イメージ



イ 広域交流・連携

広域的な課題に適切に対応し、活力あるとちぎを実現するために、コリドールネットワークを最大限に活用し、首都圏や北関東・磐越地域はもとより、これらの圏域を越えた広域交流・連携をより一層促進していきます。さらに、その交流・連携を東アジアをはじめとする世界へと広げていくことによって、新たな時代のとちぎづくりを進めます。

コリドールネットワーク

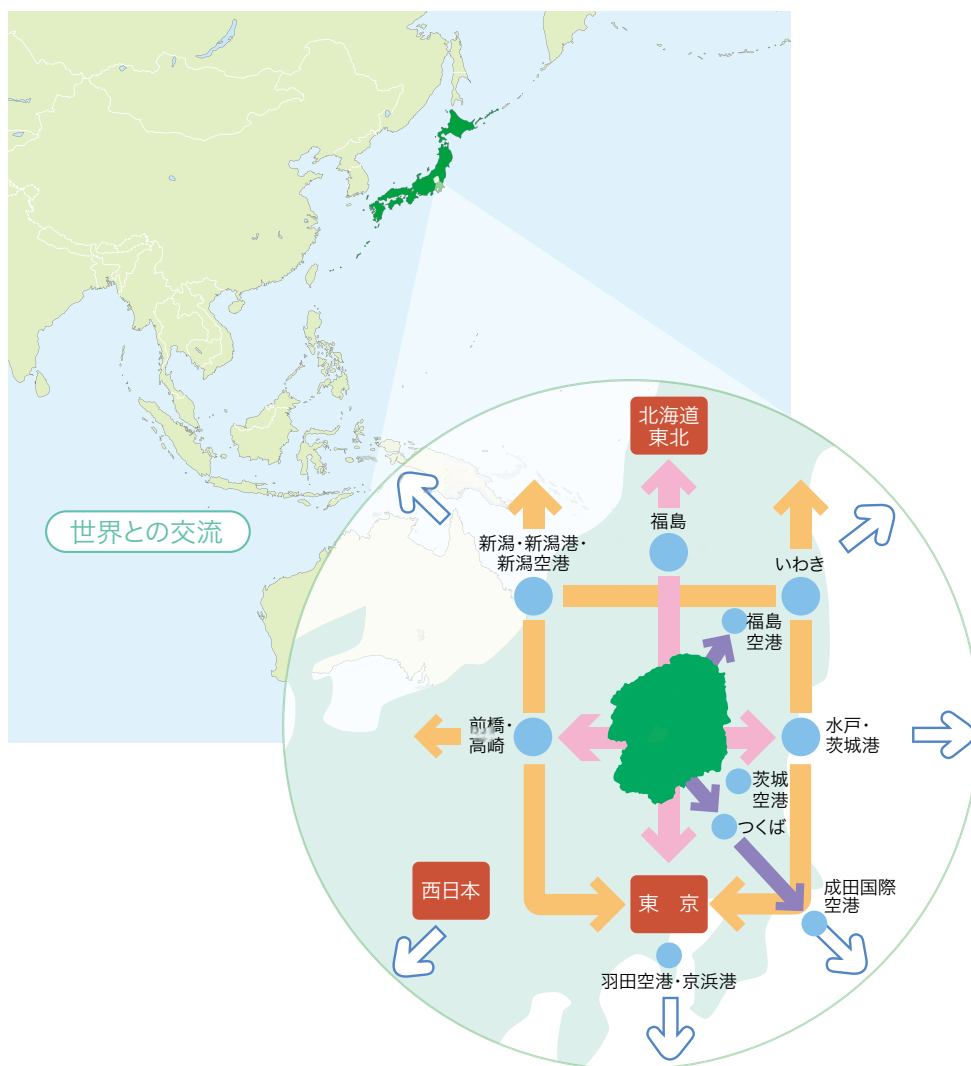




広大なとちぎの空に浮かぶ熱気球

県内各地で熱気球大会が開催され、とちぎの空をカラフルに彩ります。

広域交流・連携ネットワーク



コリドールネットワーク

本県では、交通基盤等を軸に、人、物、情報、技術、産業、文化などが活発に交流し、これらを通して有機的な連携が図られる地域の連なりを“コリドール”と呼び、そのネットワークの形成を進めてきました。

【3つのコリドール】 ～全国や世界とのつながり～

- センターコリドール：東京圏から東北・北海道地域を結ぶ広域圏を形成する国土の主要な連なりであり、情報・文化・人材の交流が展開されます。
- オーシャンコリドール：本県を太平洋と日本海に結びつける広域圏を形成する連なりであり、国際貿易港を通じて世界につながる産業や文化の交流が展開されます。
- スカイコリドール：成田国際空港・つくば及び福島空港を介して産業、文化、観光、科学技術などの国境を越えた多彩な交流が展開されます。

【3つのサブコリドール】 ～県内の個性ある地域の連なり～

- 自然ふれあい サブコリドール：本県北部を中心に茨城県北部と群馬県北部を結ぶ連なりであり、豊かな自然、歴史、文化とのふれあいを通じた交流が展開されます。
- 歴史ふれあい サブコリドール：本県西部を中心に東京圏から会津を結ぶ連なりであり、歴史、伝統、芸術などを活かした交流が展開されます。
- 清流ふれあい サブコリドール：本県東部を中心に福島県、茨城県の県際地域を結ぶ連なりであり、那珂川沿川地域の自然、歴史、文化を活かした交流が展開されます。

広域交流・連携の取組

【首都圏広域地方計画】(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県)

国土形成計画法に基づき、首都圏の自立的発展を図るため策定した計画

【5県連携】(福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県)

5県の一層の発展を図るため、社会基盤の有機的な連携とともに、人・物・情報・産業・文化などの連携・交流を促進します。

【FIT 構想】(県際地域市町村、福島県、茨城県、栃木県)

首都東京に近接し、新しい時代にふさわしい、人々をひきつけてやまない地域づくりに向けたポテンシャルを豊富に有する福島(F)・茨城(I)・栃木(T)の3県の県際地域(那須岳・八溝山を中心とする地域)が、これまで培ってきた交流・連携をもとに広域交流圏としてのさらなる発展を目指すために策定した構想。現在、二地域居住や広域観光交流の推進などに取り組んでいます。

【両毛広域都市圏総合整備事業】(両毛地域市町、栃木県、群馬県)

両毛地域のより深い交流と、一体となったまちづくりを推進するために、各種PR事業やイベント事業のほか、公共施設の相互利用の推進など、様々な事業を展開しています。